

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会・会報

2004年12月10日

30号

日本における
ドイツ年に向けて

発行者 平形 義人
発行所 ぐんま日独協会

〒377-0007

渋川市石原町966 母心堂平形眼科

☎0279-22-0149 Fax0279-24-6867



群馬県国際交流（10月17日）で評判になったソーラークッキング

■ハイマート30号 目次……………頁

- ☆ 県恒例国際交流まつり…………… 1
- ☆ 「ドイツ年」に向けて…………… 2
- ☆ 会長あいさつ…………… 3
- 夏例会の研修会内容
- ☆ 県国際まつりソーラークッキング・4～5
- ☆ 会員覧…………… 6
- ☆ 追悼 小林・木暮・横山氏…………… 7
- ☆ ドイツ年にかかわる資料…………… 8

— 県国際交流まつり参加・協力者 10.17(日) <順不同> —

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1. 平形 義人 | 9. 井口 リウ子 | 17. 黒沢 マリア |
| 2. 佐藤 進一 | 10. 桜井 義子 | 18. 黒沢 アリサ |
| 3. 島田 卓爾 | 11. 井上 敏子 | 19. 松田 治男 |
| 4. 鈴木 克彬 | 12. 対馬 良一 | 20. 澤井 修子 |
| 5. 鈴木 和子 | 13. 黒田 とめ子 | 21. 澤井 英輔 |
| 6. 松下 照明 | 14. 佐塚 操 | 22. 豊泉 伊三男 |
| 7. 松下 晴江 | 15. 川島 孝一 | |
| 8. 井口 実 | 16. 角田 潤 | |

R100 再生紙を利用しています。

題字：平形 義人 表紙写真：豊泉伊三男

「日本におけるドイツ年」に向けて

Ich möchte allen japanischen und deutschen Freunden danken, die uns dabei unterstützen, dass diese Initiative ein Erfolg wird.

Grußworte zum „Deutschland in Japan“-Jahr

Henrik Schmiegelow
Botschafter der Bundesrepublik Deutschland

Grußwort des Botschafters

In den Jahren 2005/2006 wird sich Deutschland mit einer Vielzahl herausragender kultureller Ereignisse, wirtschaftlicher und wissenschaftlicher Projekte in Japan präsentieren, um mit einem neueren und frischeren Deutschlandbild neues Interesse zu wecken für die traditionell sehr guten Beziehungen zwischen unseren Ländern. Mit mehr als 300 Veranstaltungen wollen wir zeigen, dass Deutschland nicht nur ein leistungstarker Wirtschaftsstandort und eine bedeutende Kulturnation ist, sondern auch ein Land der Ideen, der Kreativität, der Kunst und der Lebensfreude. Ich würde mich freuen, wenn besonders die jungen Menschen in Japan die Gelegenheit nutzen, dieses Deutschland besser kennenzulernen.

大使挨拶

この度ドイツは、2005年から2006年にかけて、文化、経済、科学の各分野で多数の優れた行事を実施し、日本の皆様にその姿を紹介していくこととなりました。日独両国は、伝統的に極めて良好な関係を有していますが、「ドイツ年」においてはドイツの知られざる側面に触れ新鮮な印象を得ていただくことで、日独関係への新たな関心呼び起こしていきたくと考えています。300件を超える各種行事では、強力な経済拠点や文化大国としてのドイツのみならず、豊かな発想や独創性、アーティスト的センスに富み、人生の楽しみを謳歌する姿も紹介していきます。とりわけ日本の若い方々にもそうしたドイツの姿に触れていただくことができれば、嬉しい限りです。

この一大事業の成功に向けご支援いただきます日独双方の関係者の皆様に、この場をかり厚く御礼申し上げます。

駐日ドイツ連邦共和国大使
ヘンリック・シュミーゲロー

日本側推進賛助委員会委員長挨拶

1999年から2000年にかけて、日本を幅広く紹介する行事「ドイツにおける日本年」がドイツで開催され各地で好評を博しました。この度は、ドイツがこれに呼応する形で「日本におけるドイツ年 2005/2006」を開催する運びとなりましたことを私としても大変嬉しく思っており、日本側推進賛助委員会の委員長を喜んでお引き受けした次第です。

ドイツ年では、数々の優れた展覧会、演奏会、シンポジウムその他の行事が開催され、創意と躍動感に溢れる現代ドイツの側面に焦点が置かれると聞いておりますが、これは若い世代をはじめとする多くの日本人の心を惹きつけるに違いありません。こうした試みを通じて、ドイツ年は、伝統的に良好な日独両国関係の強化や、長期的将来に向けた両国関係の新たな発展に貢献するものであり、正にここにドイツ年の意義があると申せましょう。

ドイツ年の多大なる成功を祈念いたします。

推進賛助委員会委員長
中曽根康弘

Grußwort des Vorsitzenden des Japanischen Beratungskomitees

1999 und 2000 hat sich Japan in Deutschland mit einem viel beachteten „Japan in Deutschland Jahr“ einer weiten Öffentlichkeit vorgestellt. Ich bin sehr erfreut, dass Deutschland dies nun mit „Deutschland in Japan 2005/2006“ erwidert und habe daher auch gerne den Vorsitz des japanischen Beratungskomitees übernommen.

Von den herausragenden Ausstellungen, Konzerten, Tagungen und anderen Vorhaben und von dem Fokus auf kreativen und dynamischen Aspekten des gegenwärtigen Deutschlands werden sich sicher viele Japaner und besonders die jüngere Generation angesprochen fühlen. Das ist wichtig; auf diese Weise wird das Deutschlandjahr dazu beitragen, dass die traditionell guten Beziehungen intensiviert und für eine lange Zukunft neu definiert werden. Ich wünsche dem Vorhaben viel Glück!

Yasuhiro Nakasone
Vorsitzender des Japanischen
Beratungskomitees

(ドイツ連邦共和国大使館提供)

(財)日独協会機関紙「Die Brücke かけ橋」581号より転載

創刊 30 号 ぞ 挨拶

会長 平形 義人

1988年4月17日発足し、「郷土のドイツ好き集れ！」の合言葉で、群馬に因むドイツの発見、日独親善をモットーとして早くも16年、会報「ハイマート」、も30号となりました。毎年ドイツ連邦共和国大使館より大使夫妻を始め公使、参事官等をお迎えし、昨年念願した「ドイツ

訪問団体旅行」を体験しました。時恰も「日本に於けるドイツ年「2005/6」を迎え、全国日独協会連合会も55協会を数え、日独親善交歓が全国的に拡大されて来ました。之も(財)日独協会や諸先輩の温かいご指導と会員各位の奉仕的活躍と熱心なご支援の賜と感謝してご挨拶と致します。

Sommer Treffen 25.Sep.04 (夏の例会)

講演 「日本のクリーンエネルギー事情」

講師 栗田 隆史氏 (環境先進国ドイツと対比して…)
東京電力群馬支社グループマネージャー

※参加者 (順不同)

平 形 義 人 小 成 田 文 郎 畦 見 和 佳 鳥 田 卓 爾	鈴木 克 彬 桜 井 満 五 郎 大 内 健 佐 藤 進 一	鈴木 和 子 黒 田 と め 子 井 口 リウ子 山 本 一 太 (代 内 山 豊)	矢 内 史 朋 福 川 島 孝 厚 中 小 豊 対	橋 爪 洋 介 昭 子 深 佐 藤 田 睿	上 野 道 淑 子 宏	上 野 淑 子 宏	小 山 宏
-----------------------------------	--------------------------------	--	---------------------------	-----------------------	-------------	-----------	-------

祝 電

山 本 一 太
小 淵 優 子
尾 身 幸 次
中 曾 根 弘 文

(順不同、敬称略)



講師 栗田氏



講演会前の役員会



講演会後の記念撮影

(写真撮影：小林和男)

県国際交流まつり (平成16年10月17日)

「ソーラークッキング」

井 口 リウ子

昨日までのぐずついた空模様はどこへやら高く澄み渡った秋の空。「ソーラークッキング日和」と言ってもよいだろう。

鈴木夫人のご指導で、私達はソーラークッキングとしてクレープを焼き、交流まつりに参加した皆さんに試食をしていただき、ソーラークッキングについて、知ってもらうことになった。

パラボラアンテナにヒントを得て作ったと言う直径2mはあろうかと思われる巨大な装置に私達もびっくり。

木製の枠の内側にアルミ箔を張り、集熱器の中央部分に金物の棒を渡し、それに手つきの平鍋をかけて、クレープを焼くので。集熱器を太陽の方に向けて、常に鍋の影が中心部に落ちなければならぬ。

幼い頃より「太陽の熱6千度」とは聞いていたが、約1億5千万km離れたこの地球の一角に装置した仕掛けでクレープが果たして焼けるのか、一寸不安になる。

あらかじめ鈴木夫人が用意して下さったクレープのたね(小麦粉・牛乳・卵・砂糖・塩入り)をあつくなった鍋に松下夫人がお玉杓子で落とし、囲りが幾分乾いたところで、私がフライ返しでひっくり返す。その時、金棒につり下げた平鍋の揺れるのを井口が鍋つかみでしっかり押さえてくれる。焼けたクレープは澤井夫人がジャムやチョコレートをぬり、二つに折って小さく切り分け、試



集熱器の前に、平形会長・黒田監査

食をして頂くという手順だ。馴れたところで仕事を続けチェンジはしなかった。

11時を過ぎると太陽は中央にかかり、鍋が焼けこんで来たので、クレープは片面が1分位いでよく焼ける。こげ目もついておいしそうだ。その頃は交流まつりも、たけなわとなり、試食に並ぶ人数も増えた。

「こんなので焼けるのですか?」「家庭でもできるかね」「子どもの理科の実験でやってみた」「実用化されるとすばらしい」等々、意見や感想が続出した。

3時頃、高い県庁舎に太陽がかかるのと次第に太陽熱も弱まり、クレープ焼きに時間がかかるようになった。2～3分おいてもクレープの囲りがベトついてひっくり返せない。

ソーラークッキングは熱源が太陽であるだけに時間的制約があることは致しかたない。

見事な連携プレーで、さすが、「ぐんま日独」のパワーでございました。「ねりんピック全国大会」と同時開催のため、人出が多く、県庁前広場はテントがずらり並んで壮観でした。各国の舞踊も音楽と共に、賑やかに繰りひろげられて、華やかな服装も目にあざやかでした。一等地にある「ぐんま日独」のテント(K13)も例年以上に人々が集まって下さいました。

澤井 修子・記

私達人間が公平に受ける太陽からの恵みを有効に使い、環境問題の一つとして取り上げられるべきものと思った。

このソーラークッキングの装置（木製・アルミ張り）は材料費4万円位とのこと、組み立てた角田さんは前橋市力丸町で植木職をされ、鈴木事務局長と共に、環境ア

ダバイザーとしても活躍されている方です。

鈴木夫人がこの日のために前々から用意万端整えられ、作業する者のために細かいご配慮をなされたことに感謝申し上げます。この度のソーラークッキングは、大変成功であった。

県国際交流まつり風景



風岡裕子日壊協会会長ご来訪（中央）



ブルーノ・タウトの 日向邸、(熱海市)

平形 義人

去る8月1日はブルーノ・タウトが昭和9年8月1日に高崎、少林山達磨寺、洗心亭にいられてから70周年ということから、少林山洗心亭にてタウトの工芸、デザイン展実行委員長・前島美江女史が、少林山で「タウトてらこや会」を催され、熱海から日本カーバイト工業KKの日向邸グループリーダー小野口豊氏も参会された。その席で「日向邸」に8月12日に参上することになり、約束の通り熱海に参上したところ熱海市議会副議長の大徳京子様のご歓迎も受け、タウトが日本に残された唯一の建物の中で、種々ご説明を戴き、写真で見るとは大違い多大な感動を受けました。その後11月に至り、熱海市は東京在住の篤志夫人のご厚意を得て「日向邸」を熱海市の貴重な名所として管理、保管されることになった由。タウトを愛し、ベルツ博士を敬うぐんま県人として、高崎の創造学園大学の「タウト遺品の岩波書店からの寄託」のニュースと共にこの上ないピックニュースとしてお知らせ致します。

・追 信・

なお、タウトの工芸展実行委員会はタウトが結ぶ文化事業としてタウト・工芸デザイン展をドイツ年に合わせて、仙台(7月1～6日)・高崎(8月1～7日)・熱海(9月1～4日)・京都(12月23～25日)が予定されています。

南ドイツの エクスレ鉄道

高崎市 白倉 卓夫

南ドイツ、バーデン・ビュルテンブルグ州バルトハウゼン・オクセンハウゼン間19kmを結ぶエクスレ鉄道には、蒸気機関車に引かれた観光列車が牧場や森を縫って仔牛(エクスレ)のような速さでゆったりと走っている。この鉄道については、10年程、NHK、BS放送「素晴らしき地球の旅、ドイツ編<バロック街道・春の歌>」で本会々員、由美子がレポーターとなって日本全国で紹介されたことがある。当時、経営不振で存続が危ぶまれていたが、この日本からの取材などがきっかけとなって沿線住民の一株運動が起り、昨年は二輦の蒸気機関車を購入できるところまでになった。本年6月所用で立ち寄った筆者はその格納庫建設の鉄入れ式に参加することが出来、またその時の私の機関車試乗ニュースも地元新聞で大きく報じられた(写真)。最近、ドイツ国内ではこの

祝 叙勲

島田卓爾ぐんま日独協会副会長は、秋の叙勲に際し、子持村村長4期16年に亘って続けられたなどのご功績により、「旭日小綬章」の叙勲に浴されました。ご在職中全国植樹祭の折に、天皇皇后両陛下のご昼食を村役場にご用意され、村民一同で奉迎申上げた事は永く歴史に留ることでした。(平形)

鉄道の人気は急上昇していて、昨年の乗車券発売数は34,000枚、前年より36%増という。この貴重な博物館的財産をなんとか存続させ、もっと隆盛にしてあげたいと思う私にとっては青春時代の思い出の町、ビベラッハへの想いも重なってこの一株運動には特別のものを感じている。

ビベラッハはアインシュタイン生誕の地ウルムとドイツ最大の湖ボーデン湖を結ぶローカル線の中間にある小さな田舎町だが、今でも古い城壁に囲まれた、中世自由都市の面影がいたるところに遺っている趣のある町だ。パリの凱旋門にはナポレオンが征服した都市の名が刻まれているが、その中にビベラッハの名があることをこの町の人々は今でもとても悔しがっている。毎年6月の株主総会の前後には歴史あるオクセンハウゼン修道院でのクラシック音楽会、町の広場でのブラスバンド演奏、骨董市、ソーセージやビールの屋台等々、生のドイツが存分に味わえる楽しい一週間が企画される。またこの時期に催されるビベラッハ時代祭り(シュツエンフェスト)に運よくあたる年もある。この季節はドイツの一番美しい季節、名物の白アスパラガス料理の旬でもある。立派なホテルはないが、裏にビール工場を持つ小さなホテルで地ビールを楽しむ旅もなかなか好いものだ。先日こんな謳い文句の新株募集(一株75ユーロ)に応じてくれた人達と来年の株主総会には是非参加したいと思っている。



南ドイツ：エクスレ設立



元草津町議会議長
政務院東邦廣務士
故 小林祐邦
草津ナウリゾートホテル

告 別

小林祐邦くんま日独会員は、草津町の功労者で町会議長の時1962年8月市川善三郎町長と共に、ベルツ博士の故郷ビティッヒハイム市（現在はビッシンゲン市と未だ合併していませんでした）に草津西の川原のベルツ先生の記念碑コピーを贈呈し姉妹都市の締結式を催された。その肝煎りをされた日本国際医学協会石橋長英理事長の随行者としてドイツで知り合った。祐邦君が終生マイ市長の家族と付き合い、日独親善に尽くされ、平成4年姉妹都市ビティッヒハイム・ビッシンゲン市よりベルツ賞を授与され、昭和63年勲五等双光旭日章を賜り、また昭和22年より大胡町の「鐘の鳴る丘少年の家」「愛誠会」の理事長として介護養護活動の貢献され、本年4月10日87歳にてご逝去されたことは痛恨と、喪惜の至です。（会長 平形義人）



日本温泉協会名誉会長
金太夫代表取締役会長
故 木暮金太夫

弔 辞

畏友木暮金太夫先生の訃報に接し、天変地異の連続した2004年の中でも最大の悲しみに打たれています。先生は昭和4年2月23日伊香保温泉の名門金太夫ホテルの長男として生れ、県立渋川中学校4年から群馬医学専門学校に学び、生理学教室にてご研究、医学博士号も得られ同校並びに東京大学医学部物療内科の非常勤講師をされ、日本温泉協会や日本温泉気候物理医学学会の最高幹事として終生ご尽瘁下され、郷土伊香保、群馬は勿論日本全国の温泉・観光・文化の先達として国外に迄ご活躍下されました。1988年4月くんま日独協会が結成されるや副会長となり、今日迄17年に亘りご尽瘁下されました。

毎年の例としてドイツ大使ご来県の前にはお宿を願い、伊香保温泉にご案内頂き、最上階の貴賓室のご接待は大変なご高評であり特に歴代ドイツ大使や渋川、沼田の市長様や名士との交歓は、この上ない日独親善の思い出となりました。

明治9年にご来日下され伊香保温泉を基調として著わされたドイツ人のERBIN v BÄRZ博士の「日本鉱泉論」をモットーとして日本の温泉の医学的且つ文化的発展にご尽力下さいました。

平成5年日独親善功労のためドイツ連邦共和国大使表彰、平成6年には藍綬褒章、平成11年勲四等旭日小綬章受賞本日従六位の榮に浴されました。たまたま、明年2005年4月より6年3月にかけて「日本におけるドイツ年」の実施される年に当り、皇太子殿下を名誉総裁に奉戴し、推進委員長に中曽根康弘先生を頂いて、全国運動を展開する矢先に金太夫先生を失ったことは誠に哀悼の情に堪えません。ご生前の厚情、ご高導を偲び世界に冠たる日本の温泉文化を大事にし益々日独親善に邁進致し度く金太夫先生の天界よりのご高導をお願いしてくんま日独協会の弔辞と致します。

平成16年11月19日 くんま日独協会 会長 平形 義人



横山 秀夫先生を悼む

アララギ派の歌人として、また本会の重鎮として精力的に活躍されていた横山秀夫先生が9月23日、80歳で他界したという訃報に接し、驚愕すると共に大きなショックを覚えた。先生とは数年のお付き合いであったが、至る所で数10年にも亘

する感化を受けてきた。

先生は「ロマンに生きる」がモットーのようだった。また風格のある口髭を緩めながらも、その「語り」には重々しさがあつた。

今、その一端を追想してみると——2年前（2002年4月14日）のくんま日独協会総会の夜（伊香保本暮金太夫ホテル）、先生と交歓していた時、「時代が人を作るのではなく、人が時代を作るんだよ！」と多感なパッションと明敏なロゴスで語る先生の言葉、が、今でも脳裏の奥に深く焼き付いている。——本年4月3日、渋川市民会館大ホールで「弟橋媛を顕彰するコンサート」が、旧友の坂本喜市氏を偲ぶ会でもあったことで不自由な身にムチ打って出席され、深々と耳をかたむけている姿は印象的であつた。最後に「ありがとう！」といいながら杖を使って退席されたが……老いてもその偉丈夫さが漲っていた。

※当日のパンフレットの資料欄には先生からの神社資料を掲載——圧巻だったのは、本年8月28日のアルファ芸術協会くんまの総会（県民会館）での記念講演「上州における大和武尊の軌跡・古代ロマンを尋ね歩む」であつた。病身を押しての登壇（奥様・長子の方の付添いによる車椅子）であつたが、その一言一節は先生の集大成を示すもので、参加者を古代ヘタムスリップさせるような「語り」であつた。

約2時間程の先生の蘊蓄、と語法に、参加者は魅了され席を立つ人はいなかった。

後日、これが先生の最後の講演会であつたと承り、感慨無量になった。

郷土史家として文化を育て・創り・広めてきた先生に、改めて菊（散らばつたものを一か所に集める意）の字を贈りたい。

菊の香や仏とともに人動く 合掌

常任理事 川島 孝一

俳 句

<p>伏流の水音弾む濃電胆</p> <p>鷹の菓の他を寄せつけぬ 空のあり</p> <p>火の山の稜線高く月牙ゆる</p> <p>奥琵琶の鴨の群れるて 余白見ず</p> <p>小林 和男</p>	<p>（夏） 井口 桐花</p> <p>音聞いて障子開くに遠火花</p> <p>順番に手火花もつも及び腰</p> <p>暑き日の朝の散歩に赤棟舵</p> <p>山上湖のホテルの庭に 松虫草</p> <p>暮春帰りの兄の一家へ 冷索麴</p> <p>（田島信子さん御召天） 苦しみもなく召されしと 百合の花</p>	<p>白絹の喪袴清し夏座敷</p> <p>大株となりし甘草石隠す</p> <p>柚の花の咲くの揚羽の つがひ舞ふ</p> <p>尾瀬ヶ原の池塘にぬもり 浮き出づる</p> <p>照照と尾瀬を歩くに揚雲雀</p> <p>風鈴に南部の旅の遠くなり</p>
---	--	---